

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会時、毎回理念の読み合わせを行い、理念の確認をしている。	『地域に根ざして家庭的な雰囲気の中でゆったり穏やかに』を理念に掲げ、事務室の壁に貼りだし、毎月の職員会にて読み合わせて確認しています。大まかな時間しか決めずに、利用者のペースにあわせて過ごせるよう、関わる時間を大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	常会に加入しており、地域の一員として出来るだけ、役割等に取り組んでいる。	地区の常会に加入し、ゴミ出しの立ち番などを担っています。回覧板を届けて話をしたり、季節の野菜をいただいたりしています。近所の方がホームの看板を作ってくれました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域からの利用希望や相談が増えてきており、その都度助言させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	報告が主になっているが意見などをお聞きし、実践に活かすようにしている。	今年度は2か月ごと6回開催できました。現状の報告が主になっています。	ホームの現在の課題となっている避難場所や避難方法などの防災面や、自己評価や外部評価の内容等も議題として取り上げ、目標に向けて助言などをいただき運営に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時に連絡、指示をいただくようにしている。	制度の紹介やわからない点の問い合わせなど、必要に応じて連絡を取り合っており、指示をいただいています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営会議時に身体拘束防止委員会を設置しており、身体拘束が起きないように取り組んでいる。	法人の運営会議の中に身体拘束防止委員会があり、疑わしい事例は職員に周知しています。日々のチェック表を作成して目標を決め、言葉遣いや態度などを振り返るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	そのように取り組んでいる。学習会でも虐待についての内容で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象になる利用者があるときは、随時関係者と連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はもちろんだが、わかりやすい説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、運営推進会議時に意見をお聞きし、実践に活かすよう心掛けている。	利用者からは、食べたい物や行きたい所等の声が聞かれます。行事の計画を立て実現できるように考えています。家族からも面会時等の折に、ご意見や要望をお聞きして職員で共有し、反映するようになっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会などで意見を聞き、実践に活かしている。	毎月の職員会で意見を聞くようになっています。補充用のおむつの置き場所を変更してほしいとの提案を受け検討した経緯があります。意見を出しやすいよう問いかけたり、聞き出したりしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	難しいことも多いが、できるだけ良い労働環境で働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修にはなかなか参加できていないが、法人内研修は2ヶ月に一度開催しており、全職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	必要時に連携はとっているが、勉強会等の交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	そのように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	できるだけ要望等をよくお聞きし対応することで、信頼されるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状をよく理解した上で、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯たたみや食事作りなど、できる範囲で役割を持っていただけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ感染症等で面会を制限させていただくことはあるが、ご家族との関係は変わらないような対応を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	できるだけ面会や外出の機会を設けている。遠方のご家族とはご本人が電話や手紙のやり取りをするなど、それぞれの要望に合わせて取り組んでいる。	利用者の中には、家族と馴染みのお店に食事に行く方もいます。近所の方や馴染みの方が会いに来ることもあります。できるだけつながりを継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の会話などから利用者同士の関係性を把握し、できるだけ良い関係ができるような支援を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご希望に応じて、できる範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族等から意向をよくお聞きし、把握に努めている。	日々の関わりの中でゆっくりと話を聞き、思いを汲み取るようにしています。訴えない方は、家族から聞き取りや、日々の行動や表情から汲み取って想像し、把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族からお聞きすることと、可能な限りご自宅へ訪問して様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	普段の様子や状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族に要望をお聞きし、毎月の職員会時にケア検討を行い、取り組んでいる。	日々の関わりの中から思いを把握するとともに、家族には面会時または書面にて意向や希望をお聞きして、アセスメントの中で計画を立てています。日々の記録を元に職員会にてサービス内容のモニタリングを行い、計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員会議時に話し合いをしているが、それ以外の時は連絡帳を使用して情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な範囲で、できるだけ取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	他事業所との交流会や行事に参加するなど、できるだけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人とご家族の希望に合わせて受診できるように対応している。かかりつけ医にはその都度情報を伝えている。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっています。今までのかかりつけ医の往診を受けている方が6名、家族の付き添いで受診の方が3名です。受診時はホームでの様子や体調などを記入した情報提供書を持参してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の日々の様子や変化があった場合は、その都度連絡して相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は普段の様子や異変があったことをしっかり伝えるように心がけている。退院後の再入所も可能なように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当施設でできる対応を説明し、ご家族が納得された上で取り組んでいる。(主治医にも助言や指示を受けて取り組んでいる)	入所時に事業所でできることを説明し、その後も毎年終末期についてのアンケートをお願いしています。医療の必要が少なく家族の希望があれば、主治医の指示をいただいて職員間で情報を共有し、最期まで関わっています。昨年101歳の利用者の看取りを行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的にはできていないので、今後取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は行っているが、今後も定期的に取り組んでいきたい。地元消防団に協力を依頼している。	BCP(事業継続計画)は策定されています。4月に通報訓練、11月に避難訓練が実施されました。ホームが土砂災害、水害のレッドゾーンとなっており、年2回消防団の訪問があります。区長や公民館長からも避難について一緒に検討したい旨の声掛けがあります。	災害はいつ起こるかわかりません。どんな時も安全に避難できるよう行政や地域と話し合いを重ね、協力を得て、想定外を無くすような訓練を続けていられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者に対しての言葉遣いや態度などを気をつけるように、チェック表をつけている。	ホームで作成したチェック表を使って、支援を始める前と後で言葉遣いや態度など、自己の関わりを確認し、職員会で全体として振り返るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	難しい場面もあるが、できるだけ利用者の意向に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側に合わせていただくこともあるが、できるだけご本人のペースで過ごしていただくよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	できるだけ本人の希望に沿うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握し、提供するように取り組んでいる。準備、片付けもできる範囲で取り組んでいただくよう支援している。	3食ホームで調理しています。好き嫌いを聞いて対応するようにしています。お赤飯やちらし寿司なども希望をお聞きして提供しています。たこ焼きも作りました。玉ねぎの皮むきや食器洗いなど、できることはお手伝いしていただいています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算まではできていないが、それぞれの方に合わせた食事形態、量で提供するように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後や就寝前に、それぞれの方の状態に合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄方法やオムツのタイプなど、個々の希望や状態に合わせて支援している。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導しています。排尿、排便、食量などを表に記入して共有しています。利用者にあったおむつやパット類も職員会で検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のチェックを行い、便秘になっていないか等を把握するようにしている。(下剤の調整が主になっている)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	できるだけ本人の希望に合わせて取り組んでいるが、時間帯は職員の勤務体制の都合に合わせていただいている。	週2回から3回入浴しています。拒否がある場合は、翌日に再度声かけしています。時間をかけてゆっくり入る方、シャワーを希望される方など、利用者の希望に沿うようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	温度等の環境などに気をつけて、できるだけ快適に休めるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員同士で情報を共有し、服薬のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションや体操など、できるだけ楽しんで過ごしていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症の流行で希望通りとはいかないが、できる範囲で希望に沿えるように支援している。	すぐ近くを天竜川が流れており、天気の良い日は河原まで散歩に行きます。外に出て日光浴もします。利用者の希望をお聞きしながら、今まではできなかったお出かけを検討していきたいと話しておられました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾りつけをしたり、できるだけ季節を感じられるようにしている。	対面式のキッチンで、調理のにおいや音がして心地よい空間です。部屋の入口には、折り紙が花の形に切り抜かれた季節の飾り物があります。民家改修のホームで、どこか懐かしい感じが残っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれの方のペースを大切にし、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものや馴染みの物は持ってきていただいている。	亡くなったご主人や家族の写真、お花を飾られています。今まで使っていたマッサージ機を自宅から持って来ている方もいます。民家を改修したホームのため、居室の広さや特徴は違いますが、快適に落ち着いて過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	民家改装で設備面ではいろいろと制限があるが、できるだけ工夫して取り組んでいる。		